

## 編集後記

昨年、城西経済学会誌第11巻および城西人文研究第2号を合わせた「城西大学開学十周年記念論文集」を刊行するにあたり、会長・武市春男先生に巻頭言をお願いした。昭和50年8月盛夏とあるから、先生が病床に伏される直前の執筆であるが、その結びの数行を茲に再録いたしたい。

……この記念号発兌以後に期することは、このささやかな会誌が、われわれの研究発表機関であるのみならず、さらには、同学の人びとが注目の的とするような、水準の高いものとする熱意をこめて発行を続けて行きたいと念じている。

線香花火のような、才気喚発の一時的な力よりも、歩みこそ鈍重ではあるが、ジツとこらえて、一步一步前進する努力型の力こそ、尊く、かつ、底の知れない偉力を発揮することを銘記して、今後、さらに十年、二十年を期して、謡曲の文句ではないが、ソロソロと参ろうではないか。……

武市先生は、昭和40年4月城西大学開学と時を同じうして創刊された、わが城西経済学会誌第1巻第1号の編集を担当された。爾来、本誌に寄せられた論文は第4巻第1号、第5巻第2号、第7巻第2号、第9巻第2号、および第11巻合併号に掲載の5篇を数える。公私とも実に多忙であられた先生の「有言実行」ぶりにはただ敬服するほかはない。

城西経済学会誌第12巻は、計らずも、武市先生の追悼論文集となった。登載の論文27篇は、悉く先生の徳を偲びながら、時に紙上に涙を落しつつ書き綴られたものであろう。どうか、その内容も亦、先生の期待に応えた前進の証しであってほしいと願うのである。

(編集委員代表・井口大介)